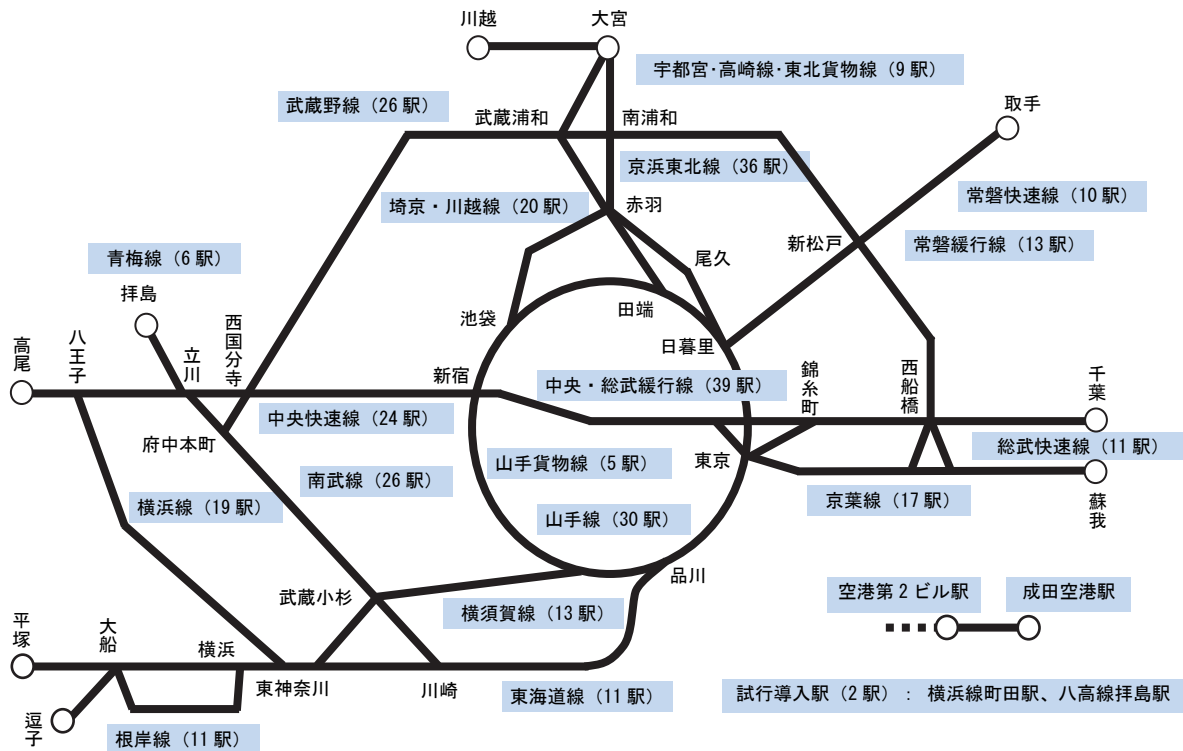


東京圏におけるホームドアの整備促進について

JR東日本では、お客さまの列車との接触や線路への転落を防止する対策として、山手線や京浜東北・根岸線等へのホームドア導入を推進してきました。

今回、駅ホームの更なる安全性向上に向け、東京圏におけるホームドアの整備促進を図ることとしましたので、お知らせいたします。なお、ホームドアの整備にあたっては、乗降10万人以上の駅等を優先し、国および地方公共団体のご協力のもと進めてまいります。

これまでJR東日本では70駅のホームドア整備を計画し、既に32駅の整備を進めてきました。今後、整備対象駅を拡大するとともに、整備のペースアップを図り、現時点から概ね15年程度（2032年度末頃まで）で、東京圏在来線の主要路線全駅（整備済みの32駅を含む330駅）に整備していくこととします。【別紙】参照



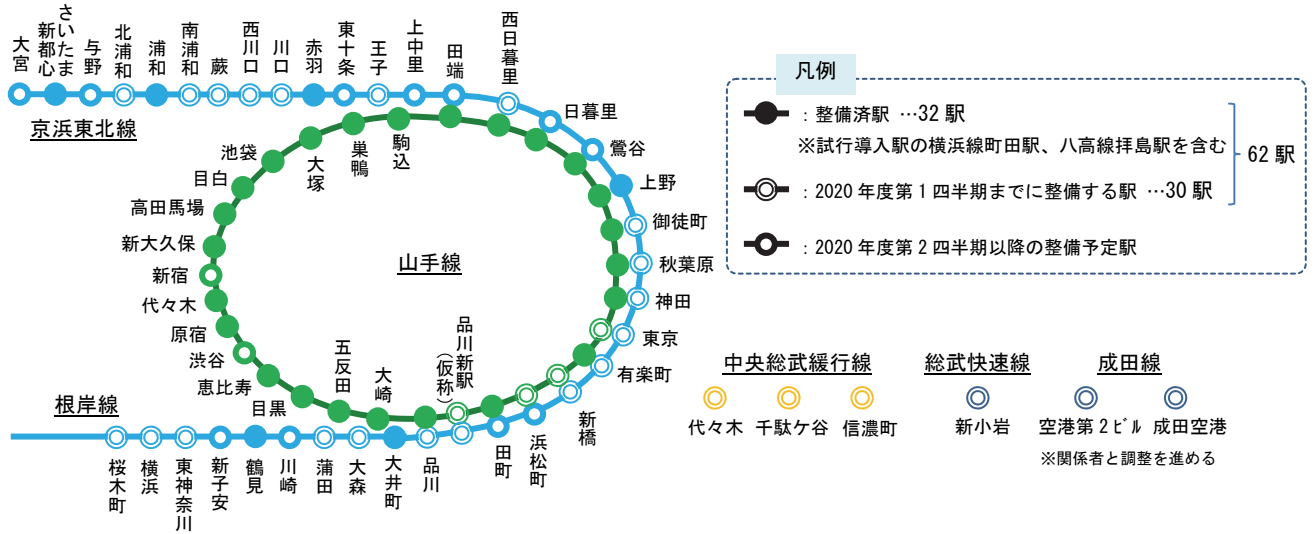
※ 駅数は線区単位で計上

(例) 東京駅であれば、中央快速線、山手線、京浜東北線、東海道線、横須賀総武快速線、京葉線の6駅

1. 整備駅および整備時期について

(1) 2020 年度第 1 四半期までに整備する駅

山手線、京浜東北・根岸線を中心に 62 駅を整備します。(整備済みの 32 駅を含む)



(2) 2020 年度第 2 四半期以降、2032 年度末頃までに整備する駅

2020 年度第 1 四半期までに整備する 62 駅の外、2032 年度末頃までに東京圏在来線の主要路線 268 駅を整備します。なお、駅の乗降人員や車両の扉位置などを考慮し、2025 年度末までに、以下線区のうち 120 駅程度を整備します。

京浜東北線、根岸線、常磐緩行線、中央・総武緩行線（中野・西船橋間）、
中央快速線（東京・立川間）、青梅線（立川・拝島間）、横浜線（東神奈川・橋本間）、
南武線、埼京・川越線（池袋・川越間）

2. ホームドアの形式について

整備するホームドアの形式は、従来型のホームドアの他、早期整備を図るため、横浜線町田駅で試行している軽量で工期短縮可能なスマートホームドア®の導入を積極的に進めていきます。

既に計画を進めてきた京浜東北線においては、新子安駅、鶯谷駅、上中里駅、東十条駅、蕨駅、与野駅、大宮駅にスマートホームドア®を整備します。

※「スマートホームドア®」は、JR東日本メカトロニクス(株)の登録商標です。



従来型のホームドア



スマートホームドア®

ホームドア整備計画一覧表

2018年3月6日現在

線区	既設駅数	2020年度第1四半期 までに整備する駅数	2020年度第2四半期 以降、2032年度末頃 までに整備する駅数	合計
山手線	24(19)	4(4)	2(2)	30(25)
京浜東北 ・根岸線 (大宮・大船間)	6(6)	20(19)	21(7)	47(32)
その他	2 [※] (1)	6(2)	245(112)	253(115)
合計	32(26)	30(25)	268(121)	330(172)
	62(51)			

()内は乗降10万人以上の駅数

※ 既設駅数に試行導入駅の横浜線町田駅、八高線拝島駅を含む